

ふるさとおもしろ統計学

ワインブーム

水戸でも消費増加傾向

現在ワインは第5次ブームだそうで、特に女性を中心に広まっているようです。

ワインが日本に伝わった時期についてはさまざまな説がありますが、宣教師フランシスコ・ザビエルが時の天皇にゼンマイ時計や火縄銃とともに葡萄(ぶどう)酒を献上したという文献があり、遅くともこのころには日本に伝わっていたようです。

今日のワインブームにはいくつか理由があるようです。食生活の欧米化やボージョレ・ヌーボーの人気、外国産ワインの値下がりなどが挙げられますが、日本人のお酒の飲み方が変わってきたことも大きな理由ではないかと思われます。酔うためでなく、味わうために飲む人が増えてきたといわれますが、ワインの持つイメージがそれにマッチしたとも考えられます。

さて、家で飲むお酒の消費量について、ここ10年間の統計データをグラフにしました。これで見ると、ワインの消費量(全国平均)は、この10年間で約3倍になっています。

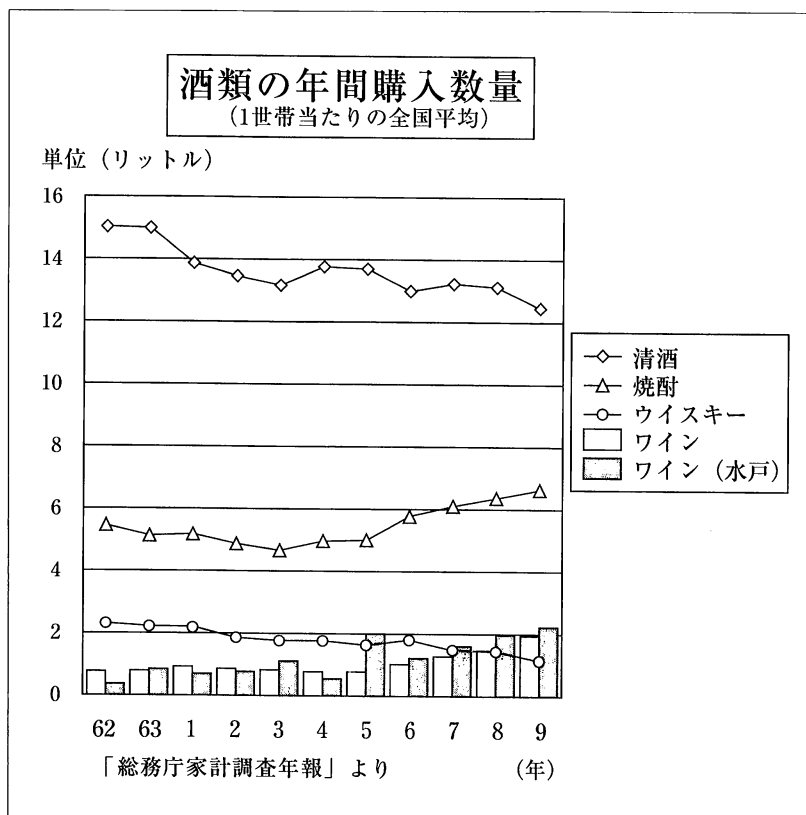
参考までに水戸市のワイン消費量を示しましたが、ほぼ同様の傾向にあります。絶対量ではまだまだ日本酒や焼酎(しょうちゅう)には及びませんが、平成8年にはウイスキーを上回っています。焼酎は酎ハイブームもあって安定した消費量ですが、日本酒とウイスキーが低迷しているのがうかがえます。グラフには現れていませんが、ビールは平成6年をピークに若干落ち込んでいるというものの、平成9年では58%と、やはり一番多く飲まれているようで

す。ちなみに「酒類」全体の支出金額は、全国平均5万2千900円に対して水戸市は5万300円と、若干低い結果が出ています(1世帯当たりの年間平均金額、平成9年家計調査年報)。

最近、ワインに含まれるポリフェノールがガンや痴呆症に効果があるという報道がなされていますが、昨今の健康ブームもワインの消費量に一役買っているようです。もっとも、ワインのアルコール度数は14~15度ですから、量を過ぎれば良くないことは言うまでもありません。水戸光圀公や徳川慶喜公も召し上がったといわれるワイン、適量を守って楽しんでいただきたいものです。

(県統計課)

平成11年1月29日掲載



* 「ふるさとおもしろ統計学」は隔週金曜日、茨城新聞に掲載されています。

ふるさとおもしろ統計学

昼夜間人口の比率

高い順に神栖,水戸,五霞

このコラムを混雑する電車の中でお読みの方もいらっしゃると思います。平成7年の国勢調査によれば、15歳以上の通勤・通学者は全国で6,348万人もいます。この数字を見ると、乗り物や道路が混雑するのは当然という気がしてきます。

調査結果をもう少し詳しくみてみましょう。従業地または通学地が自分の住所地の市区町村内の者は3,278万人で、残りの者は従業地または通学地が他の市区町村ということになるので、この人の流入と流出という現象が生じます。ここから昼間人口と常住人口の差が生じます。ここで、常住人口とは調査時に調査の地域に常住している者をいい、昼間人口とは(常住人口-流出人口+流入人口)で算出された人口をいいます。

本県の常住人口は、平成7年調査時で295万4千人ですが、昼間人口285万3千人と10万1千人の流出超過です。流出先としては、東京都23区内への8万3千人が際立っています。

県内の市町村別では、昼夜間人口比率(常住人口百人当たりの昼間人口の割合)について、高い順に挙げると、神栖町、水戸市、五霞町、土浦市、鹿嶋市です。これらは、大きな工場が立地していたり、行政、商業や教育の機能が集まっている市町といえるでしょう。

このうち、水戸市は、平成7年調査時の常住

人口24万5千人に対し、昼間人口は29万1千人にもなります。水戸市の昼夜間人口比率は118.7であり、全国の47県庁所在地の中で、東京23区、大阪市に次いで3番目に高い数値です。

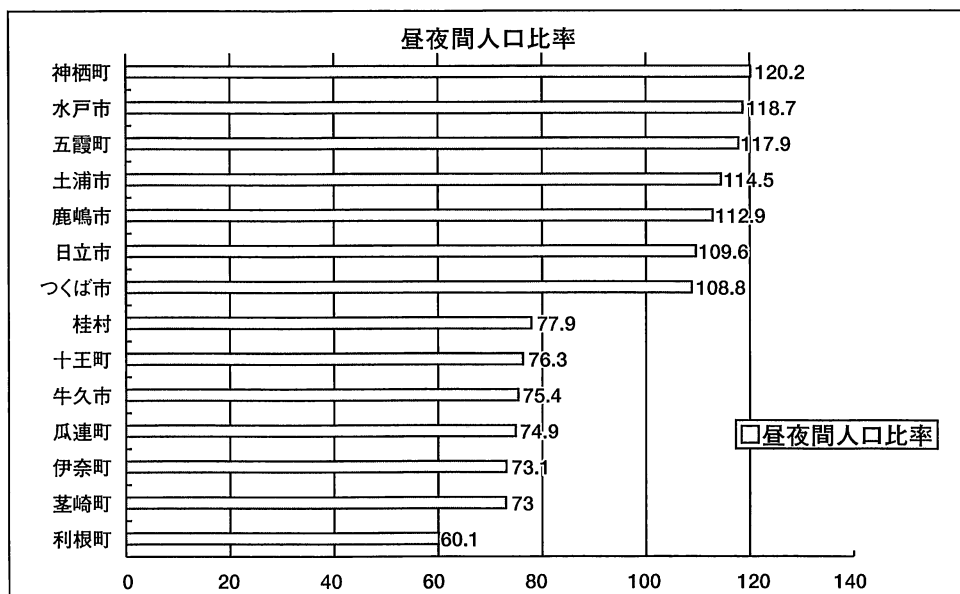
昼夜間人口比率の低い順では、利根町、莒崎町、伊奈町、瓜連町、牛久市であり、首都圏や水戸市などに通勤・通学する者が多い市町が挙ってきます。

ちなみに、東京23区には、他市町村から369万人が通勤・通学しており、まさに過密・集中していると言えます。

この過密・集中の現状を緩和のために首都新機能移転が検討されているところであり、本県の「茨城中北部地域」も候補地となっています。本年秋ごろには移転候補地の選定が予定されていますので、ぜひ本県への誘致を実現させたいものです。

(県統計課)

平成11年2月12日掲載



※「ふるさとおもしろ統計学」は隔週金曜日、茨城新聞に掲載されています。

統計って何だ

ひたちなか市企画部企画調整課 課長 山田 博

出張のおり、車窓から見える電柱がびゅんびゅん後ろへ飛んで行く、一体JRでは何本の電柱を持っているのかな？ レールの延長は聞いたことがあるが、電柱の数は聞かない。これってやはり統計なのかな、私の手元にはないが、きっとどこかに答えはあることだろう。日ごろ何気なく統計という言葉を使っているが、統計って一体何だ。何でもかでも数字を集め分類すれば統計なのだろうか？

私たちが、他県、他市を訪れた時、まず本市を紹介する、東京から約100km、人口が15万人、財政規模、産業構造云々、いずれも統計からのデータである。これらのデータを見つめると色々なことが見えてくる。データは無機質な数字が並ぶだけだが、分類し、分析することにより、意味を持ち、生きてくる。訪ねたこともない街の人口をみても、街の大きさが覗え、年齢区分で、高齢化しているのか、若々しく伸び盛りなのか、経済の情報から特産品は何かなど、ビジュアルまでは無理であるが、かなりのイメージを掴むことができる。

このような統計資料のうち、持ち家率、可住地面積など数多くの指標をもとに、全国の都道府県に「住みやすさ」のランク付けをし、経済企画庁が発表している。統計データの使い方の一つではあるが、毎年これにより下位にランクされた都道府県にとっては大変迷惑な評価であり、本来、主観で判断すべき「住みやすさ」を、客観データを

基にランク付けすることに有意義な意味を持つとは思えない。幸い、県統計課発行の統計資料「いばらき早わかり」、「市町村早わかり」、はデータを分かりやすく分類し、順位付けしており、これにより、我が郷土の姿を見、自分なりのランク付けをされることをお勧めしたい。

月並みではあるが、私たち行政に携わる者にとって、統計は、業務であり、目的の一つだが、ただ統計書を作るだけでなく、これを活用し、社会資本の蓄積はどこまで進んでいるか、いま、市民は何を求めているのか、それはどのように推移して来たか、今後どう変化するかなど、的確に把握し、行政施策に反映させることが、統計を生かすことであり、本来の目的である。

最後に、初めて統計を担当することになった昨年の4月から、今日まで多くの統計等が実施された、数多くの調査員の皆様のご協力により、つづがなく調査票を提出することができました。調査客体と向き合って、場合によっては、拒否にあったり、留守のため何度も何度も足を運び、説明をし、調査票を回収する、このような調査員の地道な努力により調査が支えられ、成り立っている事実、深く感謝を申し上げる次第です。

いよいよ本県も11番目にして、最後の300万人県へ仲間入りする年であり、1日も早く達成することを県民の一人として心待ちにしており、また、クイズの当選も密かに狙っております。

【新着資料案内】  【新着資料案内】

この資料は、平成11年1月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用ください。
行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 029-221-8111 (内線 2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
中央省庁関係		茨城県関係	
地域メッシュ統計地図, 平成7年国勢調査に関する階級メッシュマップ	総務庁統計局	地方財政統計年報 平成2年版 民間給与の実態	地方財務協会 人事院
国勢調査報告 平成7年第5巻 その2 茨城県	〃	県議会臨時会議案 平成11年1月 ①	財政課
社会生活統計指標 1999	〃	県議会臨時会議案概要説明書 平成11年1月 ③	〃
地域メッシュ統計地図, 平成7年国勢調査に関するデジタルメッシュマップ(世帯総数, 人口総数)	〃	県議会臨時会議案 平成11年1月 ④ (第2綴)	〃
国民生活白書 平成10年版	経済企画庁	県議会臨時会議案概要説明書 平成11年1月 ⑤	〃
財政統計 平成10年度	大蔵省	平成10年度予算に関する説明書 平成11年1月 ②	〃
国際農林水産統計 1998	農林水産省統計情報部	特定非常利活動法人の手引	生活文化課
米及び麦類の生産費 平成9年産	〃	県立自然公園公園区域及び公園計画	環境政策課
中山間農家就業構造等調査報告書 平成9年	〃	農業の動き, 茨城県 市町村農業概況 平成10年度	農政企画課
商業統計表 平成9年第1巻 産業編(総括表)	通商産業省大臣官房	日立港統計年報 平成9年	日立港湾事務所
商業統計表 平成9年第2巻 産業編(都道府県表)	〃	全国道路交通情勢調査成果表 平成9年度	道路維持課
商業統計表 平成9年第3巻 産業編(市区町村表)	〃	企業局水質年報 平成9年度 第29報	工務課
商業統計表 平成9年第4巻 品目編	〃	いばらき教育50年の歩み	企画室
運輸白書 平成10年度	運輸省	茨城県市町村ガイド'99	茨城県市長会・町村会
業務要覧 平成10年版	関東運輸局	会社・公社・団体等	
労働統計年報 第50回 平成9年	労働省	地理統計要覧 1999	二宮書店
建設工事施工統計調査報告 平成8年度	建設省	データブック 1999	〃
公共工事着工統計年度報 平成9年度	〃		
全国市町村要覧 平成10年版	自治省		

編集後記

23歳にして、芥川賞を受賞した平野敬一郎氏の作品「日蝕」を読みました。読後の感想は、「イマイチ」というのが正直なところ。また、内容以上に、その難解な漢字を理解するのに苦労しました。辞書を見ないと理解できない小説というのは、いかがなものなのでしょうか。
(KM)

統計いばらき 1999.3 No.539

平成11年3月発行

編集兼発行／茨城県企画部統計課

茨城県統計協会

〒310-8555 水戸市三の丸1丁目5番38号

電話 029-221-8111(内線)2651・2652
029-221-5505(直通)

FAX 029-228-0961

印刷所／富士オフセット印刷株式会社